

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年8月17日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.39】

革マル浸透の政府答弁に「ないからいい」と開き直す松崎氏！

「革マル派は一人もいない」「警察発表は信用しない」とのJR総連・東労組の“公式見解”に関し、最後に、東労組元会長の松崎明氏が2009年1月26日に「週刊現代裁判」で証言した内容を紹介したい。

(被告側代理人)革マル派に残っている人がいないということはどうして分かるんですか。(松崎)いや、革マル派というのは極端な主張をしますからすぐ分かりますよ。(代理人)分かるの。(松崎)すぐ分かりますよ。(代理人)と、もうそういう人(注:革マル派)はいなくなったということですか。(松崎)そうです。(代理人)JR総連にもJR東労組にもいない。(松崎)全国は知りませんが、私の知る範囲においてはありません。(代理人)いつぐらいまでいたんですか。(松崎)私(注:革マルを)やめてますから、誰がいつ頃どうしているかなんてことは承知しておりません。- (中略) (代理人)もういないというふうなご発言されたから、じゃあいつ頃までいたんですかと、ごく当たり前の会話ですよ。(松崎)もう聞かれた時期ですよ。(代理人)要するに、お分かりにならない、あんまり。(松崎)だからそこ(注:松崎明秘録)に書いてある時期ですよ、もうこのは。(代理人)私が聞いているのは、JR東労組の中に革マル派の活動家がいたというのを認識した一番新しい時期というのはいつ頃ですかと、そういう質問ですよ。(松崎).....(代理人)何年ぐらいまでいたねと。(松崎)...だから何年ぐらいまでいたか私は知りません。(代理人)どうして知らない。見ても分からないから。(松崎)だから、特別な発言等があれば分かります。それ以外は分かりません。

警察の発表だから信用していない」との根拠では組合員は納得しない！

松崎氏の「革マル派はいない」との結論ありきの証言は、支離滅裂である。さらに、政府の革マル浸透に関する見解について、松崎氏は次のように証言した。

(代理人)政府は2006年5月12日付けの国会議員からの質問に対する答弁書、丙23号証(注:No.1参照)の中で、JR総連及びJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると思われるところであると、このように答弁をしています。このように答弁があること自体はご存知だと思いますけれども、まずこの答弁の内容については、誤りだと認識しているということでしょうか。(松崎)事実関係は全く間違っていると思います。(代理人)総連はともかくJR東労組の中に、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透しているということ、2006年現在ではないということですか。(松崎)警察の発表ですから、そのようなことは信用していません。(代理人)警察発表じゃなくて、政府が閣議に掛けて答えている答弁書ですけども、いずれにしてもとにかくこれは間違いだということですか。(松崎)そうです。(代理人)信用していないという考え方の問題なんですか、それとも事実としていないということですか。(松崎)それは事実としていないんですから、いない者をいって、いなくても信用するわけにはいかないでしょう。(代理人)どうして信用していないということが分かるんですか。(松崎)いないからいいんですよ。

「革マル派はいない」との根拠は「警察の発表だから間違いだ」ということか。警察は革マル派アジトからの押収物の分析等により、確信を持って公式答弁しているはず。「ないからいい」との開き直りで納得する組合員など、役員以外にはいいはずだ。